

学生会だより

東海学生会の活動 (東海学生会)

東海学生会は、委員長校の岐阜工業高等専門学校をはじめ、東海地区（愛知・岐阜・三重・静岡）の大学13校、工業高等専門学校4校、あわせて17校で構成されている。具体的には、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、名城大学、大同大学、愛知工業大学、中部大学、豊田工業大学、愛知工科大学、岐阜大学、三重大学、静岡大学、静岡理工科大学、豊田工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校の17校である。主な行事は、顧問会、幹事校会、学生会員校運営委員会等の会議のほか、ニュースレターの発刊、メカライフの世界展、講演会、東海学生見学会、畠山杯争奪ソフトボール大会、全国学生研修会参加（2009年度まで）、そして年度末を締めくくる卒業研究発表会である。以下、東海学生会の主な活動状況を記す。

1. メカライフの世界展

「メカライフの世界展」は、小中学生から一般の方までを広く対象とし、機械（メカ）の仕組みに触れてもらう企画である。私たちの周りに満ちあふれた「機械」の仕組みを「見て・触れて・知る」ことのできる場を、実際設け、多くの方々に機械のすばらしさ・感動を共有していただきたいとの気持ちのもと、2009年度においては12校（前期3、後期9）にて実施された（表1）。各校とも興味深いテーマを取り上げ、さまざまな趣向を凝らした企

表1 東海学生会 2009年度「メカライフの世界展」

前・後期	実施校	テーマ（開催時期）
前期1	大同大	体験!! ロボット博覧会（5月30日（土）、31日（日））
前期2	三重大	知ろう、学ぼう 機械工学の最先端（7月28日（火））
前期3	岐阜高専	こんなところに機械工学（8月29日（土））
後期1	豊橋技科大	ロボットの展示・実演～これが日本一のロボットだ！～（10月10日（土））
後期2	豊田高専	自作ロボットおよびスターリングエンジンの公開・展示（10月3日（土）、4日（日））
後期3	愛知工科大	空を飛ぶしくみを考えよう（10月18日（日））
後期4	愛知工業大	形状記憶材料の特性を体験してみよう!!（10月10日（土））
後期5	鈴鹿高専	機械工学における創作展（10月24日（土）、25日（日））
後期6	中部大	つかみはOK! ロボット展（10月31日（土）、11月1日（日））
後期7	沼津高専	電気自動車を知って走らせよう!（11月7日（土）、8日（日））
後期8	静岡大	全日本学生フォーミュラ大会の紹介と参加車輛展示（11月14日（土）、15日（日））
後期9	岐阜大	岐阜大学フォーミュラプロジェクト活動紹介（10月30日（金）、31日（土））

画となり、多くの方に参加していただくことができた。

2. 講演会・東海見学会

2009年度には合計6回の講演会、2回の東海学生見学会が開かれた。この講演会は、大学や企業で活躍されている研究者・技術者をお招きし、最新のトピックス等を題材に講演を行っていただいている。また、見学会では、東海地区に工場を有する企業にて、主にものづくりの現場を見学している。2009年度のその見学会先の一つとして、2010年1月15日（金）には、NTN（株）磐田製作所を見学した。この会社は、ベアリングや自動車のジョイント等の製造を行っている。最先端の部品を製造する陰で、それを支える「人の手」が今なお重要であることを知るなど、機械工学を学ぶ学生にとっては、非常に有意義な見学会となった（図1）。

3. 畠山杯争奪ソフトボール大会

2009年11月7日（土）に第39回畠山杯争奪ソフトボール大会が、岐阜大学グラウンドにて行われた。



図1 NTN（株）東海見学会の様子

大会当日はすがすがしい青空に恵まれ、熱戦が繰り広げられた。すべての選手が全力を出し切る白熱した試合の末、名古屋工業大学が優勝、岐阜大学が準優勝の結果を収めた。

3. 卒業研究発表会

1年間最後の学生会行事として、毎年3月の卒業時期に卒業研究発表会が開催され、多くの学生が1年間一所懸命取り組んだ卒業研究の成果を発表している。2009年度においては、2010年3月8日に名城大学にて304名の参加者のもと行われた。この卒業研究発表会では、Best Presentation Awardが設けられて

いる。非常に質の高い発表を行った3名が本賞を受賞し、賞状並びに楯が贈られた。2010年度は、2011年3月13日に豊橋技術科学大学で開催が予定されている。多くの学生が参加し、Best Presentation Awardの受賞を目指してくれることを期待したい。(岐阜工業高等専門学校 機械工学科教授 石丸 和博)

北海道学生会の活動 (北海道学生会)

北海道学生会は北見工業大学、北海道大学、北海道工業大学そして室蘭工業大学の4大学と旭川、釧路、苫小牧そして函館の4工業高等専門学校で構成される組織で、3月末の会員数は約300名である。

学生会の主な活動は、各校から選出された2名の運営委員と顧問の先生方が一堂に会する運営委員会で決定する。2009年度の運営委員会は、目前には太平洋そして振り向けば樽前山が迫る苫小牧で開催され、学生主体で議論がどんどん進行した。さて、本稿では北海道学生会のこの1年の主な活動を紹介します。

1. 上半期

各大学・高専ではそれぞれ新入学生に対する勧誘を中心に会員拡充活動を強力に展開した。全体の活動としては、6月の運営委員会そして8月の全道学生親睦会が大きな行事である。運営委員会では北海道の各地から参集した運営委員が平成21年度の事業計画や予算をはじめとする学生会の活動指針を議論した。会議の後はまた長い時間をかけて帰路に着く強行軍だが、熱心に活躍してくれた運営委員そして顧問の先生には敬意を評する。

8月の親睦会では全道から総勢29名の学生と教員が苫小牧郊外のちょっといかしたオートリゾートに集まって、上半期総会をはじめとする重要会議をこなした(図1)。会議後の親睦会では、野性味たっぷりの幻想的な雰囲気の中でジンギスカンバーベキューを楽しんだ(図2)。当日は残念ながら

天候には恵まれず雨のため、外での友好親善は控えて、夜は数力所のロッジに別れて、学生会のあり方や機械学会の将来について夜を徹して語り合った。次の日はセイコーエプソン(株)千歳事業所に出向き、最新鋭の自動化された工場で生産される小型液晶表示装置の製造過程を見学して新しい技術に刺激を受けた。

また、8月には北見工業大学において「メカライフの世界展」が実施された。これは北見工業大学の大学等開放推進事業の「おもしろ科学実験」に併設して実施したもので、「飛行機だロボットだエンジンだそして空気だ氷だ熱だ みんな機械が面倒みよう」と題した企画は約170名の参加者があり活気を呈した。

2. 下半期

北海道は秋の気配が漂うこの時期にインフルエンザの猛威にさらされ、道内の4高専の高専祭はすべて中止となった。当初はこの高専祭にあわせて、函館工業高等専門学校でメカライフの世界展を実施する予定であったが、目に見えない難敵には勝てず中止を余儀なくされた。

さて、下半期の最大イベントは卒業研究発表講演会である。研究の発表論文数は198編、そして登録参加者はちょうど300名だった。発表会は若い力で活気に満ちあふれて当日はまだ肌寒い苫小牧の気温も1、2度上がったような気がする。この講演会は、これから世界の研究や技術を背負う若者が公の場で発表する最初の場であるから、ここで輝いた学生の発想が私たちの未来を切り開くことを願うのは決して夢ではない。実際に、あのニュートン卿が万有引力の法則などを発見した「驚異の年」の時は、23歳前後である。

この卒研発表会では、(株)日本製鋼所室蘭製作所の唐牛敏晴風力製品部長による「風力発電の現状と永久磁石同期型発電機の開発」と題する特別講演会が行われた(図3)。昨今注目を集めている環境・エネルギーを主題とし、しかも製品の設計・製造にかかわる話は緊迫感があって、大変貴重な知見を得ることができた。



図1 上半期総会



図2 全道学生親睦会



図3 特別講演会

卒研発表会の締めくくりは、ベストプレゼンテーション賞の表彰と懇親会である。アルコールはなかったが苫小牧名店のなめらかな高級プリンとカステラそしてささやかな料理で疲れを癒し、参加者の皆さんは帰宅の途についてた。

3. おわりに

1年間の活動を通して、学生会の若いエネルギーには驚かされた。それは、一種のエンタルピーのようなもので、何事にも果敢に挑戦して動かしてしまう。これはあるテレビ番組の台詞だが、「お医者さんは人を助けます、そして、技術者は国を救います」。これから、若い技術者が世界の健全な発展を担う原動力になることを期待して本稿の結びとする。(苫小牧工業高等専門学校 機械工学科 教授 加島 正)